

いの流水俳壇

松尾 満津於選

「当季雑詠」

故郷の山に触れたる月の舟

間 浩太

(評)情景のよくわかる句である。山の端に出た三日月を捉えて詠んだ句であろう。句会でも多くの人気をよんだ句である。三日月が斜にでると晴天、三日月の下に横雲があれば、三、四日のうちに雨が降り、南に傾けば豊年、北に傾けば凶年、拜めば福、次の日の災難を逃れる等、いろいろ俚言はあるが、どの程度の確率があるかそれはわからない。

未完なる画布大空の翳雲

岡本とも子

(評)晩秋の頃の戸外の風景。晴れた空の下で絵を画いている未完の画布、仕上がりは果してどんな絵になるだろう。青空に白い波のように広がって浮ぶ夏のうろこ雲、この雲の下で働いているのは農民或は運動選手かも知れない。いわし雲が

出ると翌日は天気が変わるといふ。果して明日はどんな天気になるだろう。未完の画布はそのままか、どこまで完成に近づくか、大地に腰を据えた風詠の見事さ。

探し物ばかりしてをり暮の秋

津田 久美

(評)この句に籠る思いは何も作者に限ったことではない。年を重ねると誰しもその経験はある。自分で自分を情けなく思うことだつてある。知人の名前、住所。老境とも違つた壮年層の物忘れ等、情景がしっかりと捉えられている。むろん傍に確かな家族が居るはず。

曼珠沙華野に限りなく君恋し

筒井 一平

(評)大胆な告白。「野に限り無く」は「君恋し」と曼珠沙華の両方に係つており、華やかな曼珠沙華の紅が、野辺いちめん咲き揃っている。秋のシレー(死霊)花、幽霊花、孤独花などと呼び、必ずしも縁起のよい花とはされていないが、その反面紅く綻びた姿は妖艶である。そのことと併せ考えれば、この句には悲喜交々に切ない意味が籠められているように思うのだが……。

遠くとも娘孫居る幸大根干す 竹崎 光子

校庭に駆け出す二人秋日追う 川村 愛

光揺れて不滅の法灯深む秋 友草 水月

コノモスが乙女のまままで日が暮れる 秋田 律子

生姜握る体の節々悲鳴あげ 森岡 照月

一筋の横雲流れ秋陽落つ 大川 節弥

隙間無き小包送る七五三 川村 博子

短日や縫い止めて切る蟹鉋 井上 郁子

木の葉散る賽銭箱に音入れて 刈谷 志津

鈴成りの柿に声あぐ老の旅 片岡 包女

庭掃くや空を見上げて秋惜しむ 弘瀬うき子

空青き今が見頃の滝紅葉 筒井 文

味噌汁がうましましと今朝の冬 伊藤 たみ

酒に酔ひ夜神楽によふ秋一夜 中野 好子

浅漬けや掌が知っている塩加減 松尾満津於

次 題 「当季雑詠」

締め切り 毎月第2月曜日

投句先

吾北教育事務所 上八川甲2010

☎ 867-2133

今月のことも川柳

きれいだなあもみじのあきはいい日だな
清水第一小2年 川村 誠

すずしなだけどうるさいセウのこえ
伊野小3年 大野けいこ

夏休み 楽しかったな 夏休み
伊野小3年 比嘉きょうか

雨の日にかきぐるくるにじ色に
伊野小4年 山村 紗也

雨降つてカキよろぶゲロゲロと
伊野小4年 宮崎 智也

さむいなあもう冬になるなあつ着たな
下八川小4年 大久保せいと

テロジー 出来ることから 始めよう
下八川小4年 宗我部浩大

秋の朝ほとしたら白息
清水第一小4年 井上 瑞菜

音楽は心ワクワクしてくるよ
伊野小4年 野村 菜月

彼岸花 一生けん命はそくる
下八川小6年 大久保貴史